

水稻情報

(第4号)

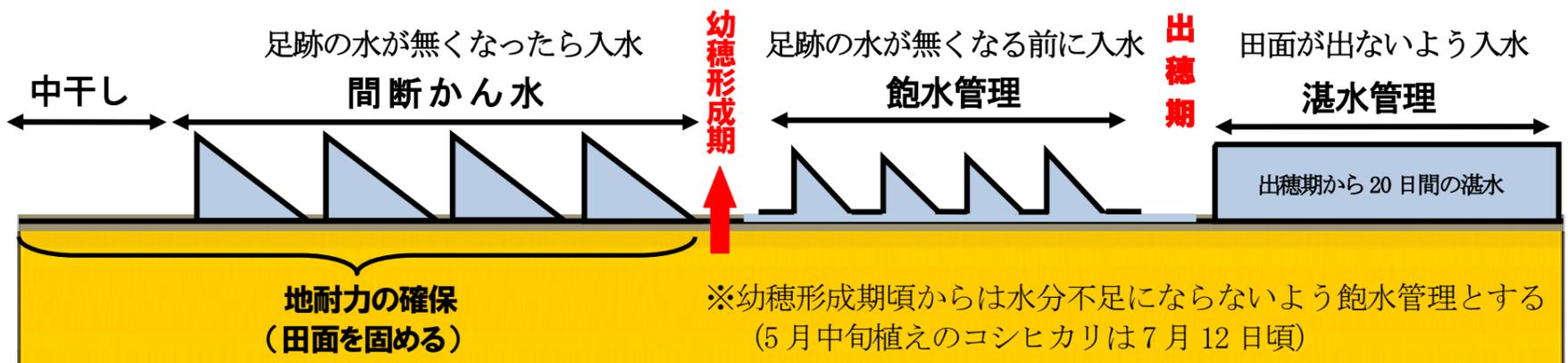
令和2年6月24日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

- *中干し後の水管理は、「^{ほうすい} 間断かん水」、「^{ほうすい} 飽水管理」により、稲の活力を維持する。
- *畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米の原因となるカメムシ類の発生を抑える。

6月中旬の水稻の生育は順調に推移しており、コシヒカリの茎数は平年よりやや多く確保されています。てんたかくの、幼穂形成期は平年より3日程度早いと見込まれます。

1. 中干し後の水管理

～「^{ほうすい} 間断かん水」ののち「^{ほうすい} 飽水管理」とする！～



- 中干しが不十分な場合は、繰り返し田干しを実施しましょう。
てんたかくは6月25日頃まで、コシヒカリは7月10日頃までに足跡の深さが3cm程度になるように地固めしましょう。
- 幼穂形成期以降は飽水管理とし、強い田干しはしない。
(飽水管理は「ほ場に入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。)
- 出穂後20日間は湛水管理を行いましょう。

2. 「てんたかく」の穂肥と葉色

～穂揃期の葉色は4.5に誘導する！～

○基肥一発肥料の場合

基肥一発肥料を施用したほ場であっても、幼穂形成期前後(6/25頃)に葉色が4.2程度にまで低下した場合は、追肥3号で10kg/10a(N成分:1.5kg/10a)程度の追肥を早急に行い、穂揃期の葉色を4.5に誘導する。

○分施の場合 ……追肥3号の施用時期及び施用量の目安(5月上旬植えの場合)

穂揃期の葉色を4.5に誘導するため、穂肥は遅れずに施用する。

分施体系	回数	1回目	2回目
	施用時期	6/25頃〔幼穂長1～2mm〕	1回目の10日後
	施用量	10a当たり12～13kg	10a当たり12～13kg

コシヒカリ、てんこもりの穂肥については次号でお知らせします

3. ケイ酸の補給

～ケイ酸を補給して稲体を丈夫に！～

○入水後、7月5日頃までに下記のいずれかの資材を施用し、稲体の活力を向上させましょう。

- ・PKけい酸(20kg/10a)・エスアイ加里らくだ(15kg/10a)
- ・エスアイ加里カリ投げくん4kg/10a(200g×20パック)

※JAあおばのおすすめ資材です。(5cm以上の湛水状態で水田にパックを投げ入れるだけ)

ケイ酸の効果

- ① 根の活力を高める
- ② フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
- ③ 茎葉を丈夫にし倒伏を防ぐ
- ④ 受光体勢を良くし登熟を高める

栽培履歴の記帳とGAPの実践を！！

うら面に続く

カメムシ対策 第4回

草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月4日(土)～5日(日)

1. 草刈りの徹底

～格下げの主要因はカメムシによる斑点米！！～



春先の畦畔・雑草地の調査では、カメムシは平年より多く確認

◎カメムシによる斑点米被害を防ぐには・・・
畦畔等の草刈りの励行と基本防除が不可欠です。
また、ほ場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので抜き取り等も行いましょう。

草刈りの方法

- ・斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底し、一斉草刈り後も雑草の穂が出ないよう草刈りを継続しましょう。
- ・大麦跡に作物の作付けを行っていない場合は、雑草等が繁茂しないように7/10頃までに耕起しましょう。



アカヒゲホソミド



アカスジカスミカメ



トゲシラホシカメムシ



カメムシ類が好む主なイネ科雑草
(左：ナギナタガヤ 右：メヒシバ)

安全な草刈り作業

- ・草刈り作業の際は防護具を装着し、小石等の飛散による被害を防止しましょう。
- ・高い畦畔では途中で小道をつけるなど、足元をしっかりと確保しましょう。
- ・1時間に1回は5分以上の休憩を取るとともに、水分補給も十分行い、熱中症の防止に努めましょう。



2. 追加防除

○追加防除が必要なほ場は次のとおりです。

- ① てんたかくで紋枯剤が含まれていない箱粒剤を施用した場合
 - ・防除時期：6月29日頃
 - ・防除薬剤：モンカットファイン粉剤20DL(4kg/10a)
 - 又は、
 - バシタックゾル(1,000倍、100～150ℓ /10a)

ルーチンブライト箱粒剤を施用している場合は不要です。

- ② 住宅地など粉剤散布が困難なほ場での粒剤体系による防除
 - ・防除時期：てんたかく 7月10日頃
 - コシヒカリ 7月26日頃
 - ・防除薬剤：イモチエースクラブ粒剤(3kg/10a)

やや深めの湛水状態で散布。
散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

水稻情報第5号の発行日は7月10日(予定)